

「賃貸」住宅暮らし

写真上は『東海 大人のウォーカー』2007年11月号「昭和30年代の懐かしいあの場所を訪ねて 名古屋レトロ散歩」から。

いま住んでいる星ヶ丘団地の昭和37年の写真だ。「昔は追分と呼ばれ、松や竹が茂る丘陵地帯だった。昭和31年に団地の建設が始まり、住宅地がいきなり広がった」と書かれている。

停留所に停まっているバスは「上飯田」行き。ここから北区「上飯田」とは意外な感じだ。レトロな公団住宅とレトロな市バス、車がなつかしい。



昭和37(1962)年という、親父の転勤で名古屋から引っ越し高山で暮らしていた。高度成長と都市化の真っ盛りであり、名古屋東部の丘陵地帯で団地建設が、急ピッチで進んでいた頃だ。「団地族」といった言葉が、当時の都市生活を象徴していた。

1990年から「星ヶ丘団地建替事業」が始まり、1号棟から11号棟まで、700戸余りの新しい団地が誕生。写真中はUR都市機構のサイト。いつも見ている団地風景と違う感じだ。団地「ランドマーク」なのが、1997年に完成した25階建て10号棟である。高層なので、遠くからでもよく見える。団地誕生から20年余りが経ち、いま大規模な「修繕」事業が行われている。



写真下は10号棟前から撮った現在の星ヶ丘団地、「アーバンラフレ星ヶ丘」の入口付近。すこし進むと、円形「広場」があり、多くの子どもたちが遊んでいる。数年前には見かけなかった光景。地下鉄駅や保育園、学校に近く、若い世帯が増えてきた。



わたしの住んでいる8号棟は、ここから真っすぐ行って右端。8号棟は1995年11月に完成した。完成まもなく入居したので、もう20年にもなる。なぜ、UR(昔の公団)賃貸住宅に「沈滞」したのか。前にもレポートしたが、これには悲しい「わけ」がある。名古屋市立女子短大に就職が決まり、まず入居したのが東山公園近くの「新池ビル」という古い賃貸アパートだった。池下の不動産屋で偶然見つけた。アパート前に「新池」があり、緑多い平和公園南部にも近いのが気に入った。10年あまり住んだが、なにせ古いので家探しを始めた。ときはバブルの頃だ。

東山公園近くの中古マンションを購入したのが、現在の「沈滞」につながっている。この頃は「賃貸」の良さも感じている。「賃貸」に「沈滞」しようか。

(2016年11月18日)